

【校長室の窓】 R 3 年 5 月

川棚のシンボル〜クジャクが羽を広げた創立80周年ロゴマーク

川棚高等学校長 畑野 公昭

さて、いきなりクイズです。日本の国鳥は何でしょうか？…答えは「キジ」です。川棚町のシンボルであるインドクジャクもキジの仲間。クジャクはインドの国鳥です。1963年に当時の佐藤長崎県知事がインドを訪問した際、インド政府から友好の印として10羽のクジャクが贈られたのを契機として、大崎自然公園内に「大崎くじゃく園」が開設され、今は約200羽（日本一！）が飼育されているそうです。インドとのつながりは、「カレー」ばかりではないんですね。

クジャクは、害虫やあの猛毒のコブラも攻撃して食べることから、インドでは「人々の災厄を取り除く功德」を備えた「神聖な鳥」であり、宗教的な信仰対象となっています。そんなクジャクが長崎に贈られたのは、太平洋戦争末期に原爆を経験した長崎が、再びそのような災厄に遭うことなく平和を保ち続けてほしいという願いが込められていたのかもしれません。クジャク園がある川棚は、その願いを保ち続ける宗廟のような場所といえるのでしょうか。

クジャクといえば、ハンガリーの作曲家コダーイの管弦楽曲に「ハンガリー民謡『孔雀は飛んだ』による変奏曲」があります。吹奏楽版にも編曲され、日本でも親しまれている曲です。この曲は、1939年に作曲され、ファシズムが台頭した当時の暗い世相に対して、民謡に込められた「自由と人間性の尊重」を訴えるものでした。クジャクと言えば、羽を広げた華麗な美しさをまず思い浮かべますが、孔雀に象徴化された力にも、大きな魅力が宿っています。

さて、本校の創立80周年に際してのロゴマークが4月に完成しました。本校美術部の生徒の手によるもので、川棚町のシンボルであるクジャクが羽を広げ、シルエットには本校の校章が重ね合わせられている、素敵なデザインです。三色の色は、川高で学んできた三世代を表し、川高の過去と未来が表されています。このクジャクの姿は、「こぶた鵜



創立80周年ロゴマーク

の志」を抱いた本校生徒そのものであり、世代や地域を超えて互いに協力しながら、様々な困難を乗り越えて、自由で平和な社会を力強く築いていくという決意が込められているようにも捉えることができます。この1年、さまざまな周年行事を計画していますが、活動にいそしむ本校生にぜひあたたかな激励をいただけると幸いです。

なお、ロゴマークのデジタルデータの作成やデザインを整えるに当たり、長崎県窯業技術センター様にご支援をいただきました。ここに、厚く御礼を申し上げます。